

がく じ 学 而

摂南大学図書館報

No.105 2024.3



摂南大学図書館所蔵

「日本軍政下のインドネシアにおいて上映された映画」

この資料は全6巻からなり、オランダの国家情報局（Rijksvoorlichtingsdienst）が管理する映画フィルムをビデオテープに複製したものです。内容はニュース映像なども含み多岐にわたり、当時のようすを伺うことができます。

CONTENTS

- | | |
|---|-------------------------------|
| ● 人生を豊かにする本との出会い — 3冊の書籍 — …… 2
学長 久保 康之 | ● 教員と図書館学生サポーターが選ぶ推薦図書 …… 10 |
| ● 図書館の資源 …… 4
図書館長 小山 昇 | ● 枚方分館ニュース …… 12 |
| ● 「ああ、そういうことか！ 読書のたのしみ」 …… 6
農学部 教授 濱田 英嗣 | ● 図書館学生サポーター活動 …… 13 |
| ● 「若者の読書離れ」再考 …… 8
現代社会学部 教授 岩井 八郎
現代社会学部 准教授 山本 圭三 | ● 2023年度図書館学生利用者アンケート結果 …… 14 |
| | ● 図書館利用統計 …… 16 |
| | ● 2022年度図書館入退館者調査 …… 17 |
| | ● 電子ブックを活用しよう！ …… 19 |
| | ● 2023年度摂大文化大賞・編集後記 …… 20 |

人生を豊かにする本との出会い

— 3冊の書籍 —

学長 久保康之

書籍に巡りあうことは無上の喜びであるが、その著者に会うことができればこの上ない幸せであることは間違いない。著者と直接、言葉を交わすことができた3冊の書籍を紹介する。

1冊目の書籍は源孝志著の「グレースの履歴」（河出書房）である。一昨年、2022年夏に本書を原作とするテレビドラマ撮影が摂南大学枚方キャンパスで行われたことがきっかけである。撮影の一部は自身の研究室でも行われることが決まり、単に場所の提供だけではなく、ドラマの場面設定に合うようなセッティングの助けができればと同書を購入した。さらには直前の海外出張の機中でも読めるようにとiPadにもオンライン版をダウンロードして読むという念まで入れて準備をした。

主人公の希久夫は北大農学部出身で植物学を専門とする製薬会社の研究員、兄は京都府立大学で発酵学を研修する経験をもつ杜氏職人、植物病理学を専門とする自分にとって、なんだかそれだけで不思議な縁を感じてしまった。グレースは主人公の妻、美奈子がつけた愛車の名前、妻は仕事で訪れたフランスの山中での自動車事故で亡くなる。妻の愛車のグレースが残され、そのカーナビの履歴を辿る中で希久夫は自身の人生の履歴を辿ることになる。美奈子は主人公が避けてきた人生の履歴を共有したいと望み、夫が記憶の底に追いやり打ち消してきた人々、離別した母、兄、恋人に単身で会ってきたのである。それを決意させたのは妻が心底夫を愛し、そして余命何年という重篤な病気を患っていることを知ることになったからでもある。伏線の主人公はまぎれもなく、亡くなった妻、美奈子。人はいいが、優柔不断で、ともすれば人生の不遇から目を避けて生きてきた主人公に対して、芯が強く、社交性もあり主人公とは対照的な妻。宿命ともいべき人生の諸事に逃避するのではなく、真っ直ぐに向き合うことの大事さ、自分というものを見つめることの大事さを情感豊かに伝えている。そして、妻の存在が示すように、それを支えるかけがえのない人の意味も問いかけてくる。

メッセージに富んだ本である。このような思いを懐きながら、撮影の合間に著者の源孝志氏と主人公役の滝藤賢一さんと言葉を少しかわすことができた。その時のわずかなことばの交換は本書の世界を共有することができた至福の時であった。

2冊目の書籍は建築家、安藤忠雄氏の著書「連戦連敗」（東京大学出版会）である。もう、20年近く前になるが、本書を手にしたのは独学で稀代の建築家となり、東京大学工学部の教授も務めた安藤氏にみる「学び」とは何かに関心をもったからである。当時の「随想」¹⁾を振り返りつつあらためて論じたい。

この本は氏の東京大学での大学院の講義をまとめた体裁になっている。建築デザインの内容、思想史などが展開され、そこに氏の人生観、学びの歴史が込められている。最優秀といわれる学生に対して圧倒的な説得力をもって講義を展開する。その力はどこから来るのだろうか。氏は大阪の下町に育ち、高校卒業後、プロボクサーの経験を経て、独学で建築を学び、今を築いた。大学には進学していない。大学における学びとは何か。大学教員としての素朴な問いであった。その答えの一つは「独学」が「学び」という行為を純化したからではないかと考えた。自らの存在をかけ、自己の取り組むべき「主題」を見出すこと、そしてあくまで「現場」から離れず「格闘」する。この行為が極めて洗練されて為されていることにあるのではと。

一方、大学の淵源といわれるプラトンのアカデメイアは、教師と学生が対等な立場で対話、対論を交わすことが教授法の基本であったという。では「独学」という行為が学びを純化するという何をどう捉えるか。安藤忠雄氏は対話の名手でもある。「独学」と「対話」は対置する概念ではない。大学教育における「主体的・対話的で深い学び」をいかに実のあるものにするか。自分への問いかけであり、そのヒントが隠れているように思えてならない。

「連戦連敗」には珠玉の言葉が溢れている。安藤忠雄が最も気にいっているという建築家ルイス・カーンの「創造とは逆境の中でこそ見出されるもの」という言葉は安藤忠雄の人生と同調していることは間違いない。当時、大学のキャンパスデザインに関心があり、氏とは講演会の機会に直接言葉を頂くことがあった。尊敬を込めていうが、オーラを発する大阪のおっちゃん存在に不思議な幸福感を感じたのである。

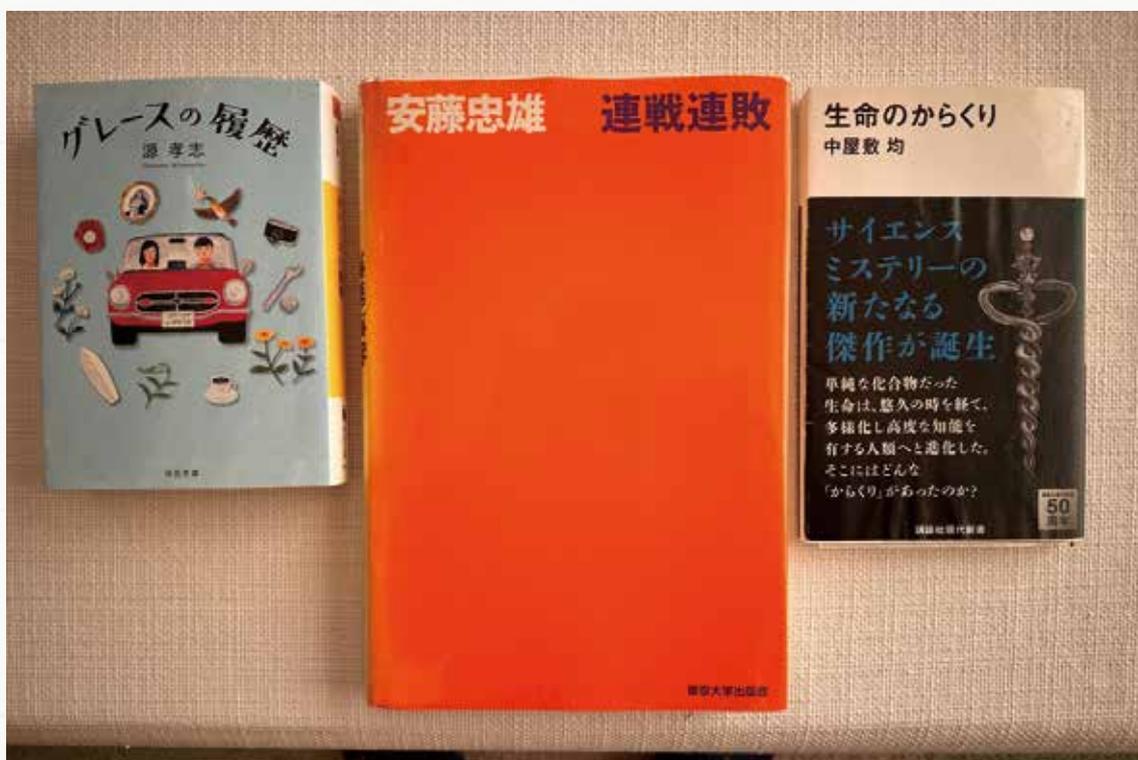
3冊目の書籍は中屋敷 均氏執筆の「生命のからくり」（講談社現代新書）である。著者の中屋敷氏は京都大学植物病理学研究室の後輩である。本書は「生命の本質とは何か」、変化しつつ継続する生命の不思議、変化と保守性、生きているのはどういうことかを追求した書である。

氏は大学の専門分野である植物ウイルス学を基調としながらも、そこから関心は放たれ、哲学的思念を自身のものとするに至る。理系の研究者でありながら、自在なレトリックに彩られた文体に引き込まれる。それでいて、サイエンスの世界を超越した空想の世界への飛躍や逃避は一切ない優れた書である。本書では執筆にあたって2人の鍵となる人物が示される。一人は生物の進化の理論的論拠となる遺伝子の変化と保存性に関する「不均衡進化」モデルを提示した古澤満博士との出会い。さらには書籍の出版の後押しとなった大阪ガス行動観察研究所所長の松浪晴人氏とのアメリカ留学時における出会い。そして、続本である「科学と非科学 その正体を探る」（講談社現代新書）では、ものごとを捉えるにあたっての精神的な骨格形成の土台をつくってくれた祖母の存在も示唆される。

価値ある仕事を達成するにあたっての要件は人との出会いであるということであらためて感じさせる。筆者が植物病理学会会長時に植物病理学会編著の「植物たちの戦争—病原体との5億年サバイバルレース」（講談社ブルーバックス新書）を出版できたのも、中屋敷氏の提案によるものである。難しいことを書いたが、氏の謙虚で人懐っこい人柄が本の誠実さを表現していることを強調しておきたい。

3つの書籍を読んで感じることは、「自身を見つめること」「人生を見つめること」の大事さである。とりわけ学生時代はそれを可能とする貴重な時である。そして「人との出会い」も大事であろう。自身の人生に決定的な出会いはいつ、どこであるかはわからない。出会いの意味はその時点ではわからないかもしれない。しかし、長い人生からみれば、その意味の輪郭が浮かび上がってくるに違いない。良書との出会いは人生を豊かにする。

1) 京都府立大学図書館報 なからぎ 176号 2006年7月「連戦連敗に学ぶ」



図書館の資源

図書館長 小山 昇

大学図書館が所蔵する資料について、大学設置基準第38条1項は、「教育研究を促進するため」に整備し「学生、教員及び事務職員等へ提供するものとする」と規定し、図書館は「教育研究上必要な資料」の収集、整理を行うほか、利用を促進するために必要な環境の整備に努めることを求めている(同2項)。

図書館資料は、図書や雑誌などの印刷資料、映像や音声などを記録した非印刷資料に加えてCD、DVDやBlu-rayなどに記録されたものや、ネットワークを使ったインターネット情報やデータベース、電子ジャーナルといった電子資料も今では大きな存在となっている。情報通信技術の発達には図書館資料を「図書館情報資源」へとその対象を拡大させていて、図書館の役割も社会環境の変化に合わせて進展していくことが不可欠となっている。資料から「資源」という捉え方をすると物的のみならず人的資源も含まれることになり、これからの図書館のあり方を明確にすることが可能になると思われる。教育機関である大学の図書館にあっては、これら両面から考えることが特に重要である。

文部科学省は、大学図書館の現状を明らかにするために昭和41年度から毎年5月1日現在で「大学図書館実態調査」を実施しており、平成17年度からは、状況の変化に対応して「学術情報基盤実態調査」として行われている。現時点における最新のものは、令和4年度の調査結果が2023年3月に公表されていて、調査対象の大学は、国立86、公立99、私立626の計811大学で回答率は100%である(https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/jouhoukiban/1266792.htm 2024年1月9日アクセス)。統計表では調査項目を学部数の規模別にA(8学部以上)、B(5～7学部)、C(2～4学部)、D(単科大学)に分けて集計している。

学術情報基盤実態調査は「大学図書館編」と「コンピュータ及びネットワーク編」に分けて調査されているが、「大学図書館編」において、平成24年度調査結果を基準とした令和4年度までの10年間の推移として、電子ジャーナルの利用可能種類数の増加に対して洋雑誌の購入種類数は減少している、と「結果の概要」で述べている。蔵書冊数等は平成23年度を100とする指数で示しているが、前者は175後者が40となっている(いずれも令和3年度までの推移)。図書、雑誌、電子ジャーナル、電子書籍そしてデータベースなどを合わせた図書館資料費は10年間の推移はほぼ変化がな

いが、蔵書冊数と所蔵雑誌種類数は106と104、電子ジャーナルにかかる経費は151と増加しているが、図書受入冊数は58、雑誌受入種類数は54と半減しているのである。

また「コンピュータ及びネットワーク編」では、無線LANを有する大学数(122)、全学的な学内認証基盤導入大学数(120)、情報戦略策定済みの大学数(115)そしてセキュリティポリシー策定大学数(133)と増加を示している、とされる(これらは平成24年度からの推移の指数)。情報リテラシー教育実施大学数は108と微増であるが、遠隔教育実施大学数は、令和元年度101であるものの令和2年度264、令和3年度268と大幅に増加し、また講義のデジタルアーカイブ化実施大学数も同様に令和元年度104、令和2年度178、令和3年度189と増加(いずれも平成23年度からの推移)が見られる。

2020年4月7日に新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が公示されて緊急事態措置を埼玉・千葉・東京・神奈川・大阪・兵庫・福岡に実施すべき区域とされたが、それが4月16日には全都道府県に拡大され、通常授業が非対面に移行することになったことがこのような推移の変化をもたらした主たる要因と考えることができる。2023年5月8日に季節性インフルエンザと同じ感染症法上の5類に移行するまでの3年間は、図書館の利用者に不便を強いる毎日であったことは確かである。

本学図書館の利用者数や館外貸出人数を見てみると、2018年度から2022年度までの5年間について2018年度を100とすると、1年間の集計がある2022年度までの入館者数は2019年度から93、9、27そして46と大きな変化が認められる。集計結果のある月までの2023年度を加えて2019年度から2023年度までの推移を見ると、入館者数は92、8、25、49そして42となる。館外貸出人数も91、25、50、67そして72となっている。

貸出人数が入館者数と比べて大きく減少していないということは、図書の閲覧を中心に授業などに必要な資料を学外で利用するための入館者が多かったと考えられる。従来から学外利用ができる電子資料はあるが、コロナ禍によって人との接触をできるだけ減らすためにもネットワークを利用した電子ジャーナルなどの拡大が求められVPN(仮想のプライベートネットワーク)を使って学外利用ができるようにして図書館利用の質

的拡大を行ったために、数字に表れたままの落ち込みにはなっていないと思われる。また、2023年4月以降の月ごとの集計を見ると、入館者数は前年同月比で本館では80%を超える程度であっても分館は100%を超えて200%以上の月もあり、館外貸出人数は本館・分館ともに100%を超える月が連続していることが分かる。

このような数字から回復傾向にあることが認められるが、コロナ禍にあって図書館利用に制限を受けたという経験は、大学における図書館について考えるべき機会を与えていると考えられる。ほぼ3年間続いたことによって大きな隔たりができたことは間違いがなく以前にそのまま戻すことは不可能であって、将来に向かっての検討がまさに求められていると考えられるのである。

コンピュータ・ネットワーク技術の発達や学術資料の電子化の流れは大学図書館の利用に多様性をもたらしており、主たる利用者である学生もデジタル技術やネットワーク環境にネイティブな世代である。従って「図書館の資源」もこのような状況から捉え直すことが必要となってくる。

図書館の物的資源としてまず挙げられるのは「図書」であるが、定義として「文字や図表などが記載された紙葉を冊子体に製本した資料、本、書物、書などともいうが、図書館用語としては、通常、図書が用いられる。」とされる(日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学用語辞典(第5版)』丸善出版174頁)。図書以外の印刷資料としては、雑誌(図書館では、製本した雑誌は図書とみなすことが多い、とされる。前掲書85頁)、新聞、加除式資料、地図などがあり、非印刷資料として、図書館では古くから紙媒体の資料に次いで所蔵されてきているマイクロフィルムやマイクロフィッシュなどに記録したマイクロ資料や、画像、映像、音声によって情報を記録した視聴覚資料があって、これらに対して重要な資料と現在になっている電子資料がある。

電子資料は、前掲書によれば「情報の蓄積、流通に電子的なメディアを用いた資料。メディアの記録形式からはデジタル資料ということもできる。」とされ(前掲書167頁)、データベース、電子ジャーナルそして電子書籍を挙げることができる。従来、印刷物として出版されていた雑誌や図書の形の著作物が電子メディアを用いて出版されたものである電子ジャーナルや電子書籍は、パッケージ系の資料もあればネットワークを利用する資料もあるためにその利用の仕方も異なるのであって、それらを有効に活用するためには電子資料を正しく理解する必要がある。しかし、電子化の流れが高まっても印刷物が学術情報として重要であることに変わりはなく、電子資料へのアクセスを確保していくと同時に

紙媒体の図書等の収集や提供にも重点を置き続けることを忘れてはならない。そうすると、図書館が提供する物的資源を真に活かすためにも、人的資源の図書館職員が一層重視されなければならない。

学術情報基盤実態調査においては「外部委託業務」が調査されており、「全面委託」を実施している大学は、大学全体で9.7%、国立大学0.3%、公立大学14.3%そして私立大学は11.5%になっていて、8学部以上のA区分(本学はこの部分に該当する)では、国立・公立大学がともに0%、私立大学は13.3%である。その一方「一部委託」の実施率では、全体で71.3%、国立大学86.5%、公立大学68.0%、私立大学67.7%となっている(大学図書館編)。また、もう一つの編でも「業務の外部委託の状況」を調査していて、実施率について全体が87.1%、国立大学86.0%、公立大学94.9%そして私立大学85.9%となっているが、A区分では国立大学と公立大学が100%、私立大学97.9%と高い実施率となっている(コンピュータ及びネットワーク編)。

外部委託業務について実施調査では、一部委託の場合の業務別内訳は、①目録所在情報データベースの作成、②1次情報データベースの作成、③電算機の運用、④複写、⑤製本、⑥受付・閲覧、⑦清掃、⑧警備、⑨時間外開館業務、⑩その他の10項目(大学図書館編)、「コンピュータ及びネットワーク編」では、①コンピュータやネットワークに係る全ての業務、②コンピュータ及びネットワークの管理・運用関連業務、③コンピュータ及びネットワークの保守業務、④セキュリティ関連業務、⑤研修業務、⑥ヘルプデスク、⑦その他の7項目としている。一部委託の場合は、全体(実施館数1098館)では、清掃(880館)、警備(701館)そして製本(633館)については半数以上であるが、受付・閲覧(389館)や時間外開館業務(405館)も3割以上が委託されていて、コンピュータ及びネットワーク編では、実施大学数(706)に対して、全ての業務の委託は69大学と少ない(A区分では、国立大学1、公立大学0、私立大学5大学)が、管理・運用関連業務(451大学)と保守業務(587大学)は6割あるいは8割を超える大学が委託しているという結果である。

このような調査結果を見ると専門技術が特に必要な業務はやむを得ないが、外部委託の内容も検証されるべきであって、高等教育及び学術研究を支える重要な基盤である大学図書館の役割を果たすためにも、外部委託を含めた「図書館職員の専門性」に重きを置いた図書館の運営が求められると思われる。そして、人的資源の力を活用することが物的資源を活かすことにもなり、さらなる図書館の進展を作るものと考えられる。

「ああ、そういうことか! 読書のたのしみ」

農学部 教授 濱田 英嗣

私の専門分野(水産経済論)はフィールドワークが中心で全国各地の漁村、漁業者、漁協などを訪ね、漁模様や経営状況などの聞き取り、そのデータから新たな知見を論文化するといった作業を長年続けてきた。しかし、50歳を超えてから次第に読書にはまるようになったと思う。ジャンルも専門書以外の様々な書物を手取るようになった。きっかけは、水産系学部から経済学部に移籍し、同僚に読書人が多く、彼らの影響を受けたことが大きい。かくして就寝前に気楽に読むスタイルで、私流の多読が始まった。

これまでの読書を振り返り、とくに良かったと思うのは、「ああ、そういうことか」と長年の小さな疑問が読書で解消した時である。様々な分野の多読を通して、長年疑問とともに過ぎてきたことが、かなりの年月を経ての読書からこのからくりが判明し、長年の疑問が氷解した時の「ああ、そういうことか」という気づきは読書冥利につきる。こうした観点から、以下では印象に残っているいくつかの書物を紙幅の枠内で紹介したい。

【薩摩は御禁制のコンブをどうやって手に入れた?】

江戸幕府崩壊は薩長土肥、とくに薩摩の存在が大きく、倒幕に必要な薩摩の軍資金は「コンブによる密貿易」であったと教科書で習ったが、よくよく考えると「鹿児島県で天然コンブは育たない」、薩摩は北海道産昆布を手に入れる必要があった。では、薩摩は幕府の目をかいくぐり、どこからコンブを入手したのであろうか。

江戸時代中期以降、北海道から日本海沿岸を南下し京都・大阪間を往復する物流ルートが開発され、越中富山の薬売り達も北前船に薬荷を積載していた。薩摩藩は彼らに目をつけ、藩内の薬売りを許可する代わりに「松前コンブ」を薩摩に運び込むことを要求した。一方で、薩摩藩は他国者の藩内侵入に高いハードルを設けていたが、越中富山の薬売りは例外的に売薬を許可するという「アメ」を提示し、交渉は成立した。つまり、薩摩藩は越中薬売り(富山薩摩組)を介してコンブを入手したのであった。

／徳永和喜『海洋国家薩摩』南方新社

【江戸時代の欧州・日本の識字率、どうやって推定?】

日本の産業革命(農業国家から工業国家への移行)は明治時代に開始されたが、極めて短期間で達成された点に特徴がある。イギリス産業革命は1760年~1830年の約70年を要したが、日本は1870年~1910年の約40年

で成し遂げた。成功要因は色々あるが、江戸時代の日本人の教育水準(識字率は少なく見積もっても70%)が寄与したことは間違いない。当時の識字率はスコットランド90%、フランス70%、ロシア20%台、それに対し、「寺子屋教育」効果によって日本人の識字率は引けを取らない水準であったことがわかる。

では、当時の識字率をどうやって推定しているか。欧州では結婚の際に教会で証明書に氏名をサインする必要があるが、名前を書けない新郎・新婦は「+」などの記号で済ませたので、自著した者と記号の者を識別して推定する。日本では当時の静岡県下で村役人の選出に投票が行われ、他人の氏名を記入した村人(百姓代)の比率70%を根拠としている。

／高橋敏『江戸の教育力』ちくま新書

【初心に3つの初心あり】

スポーツ分野や学術分野など様々な分野で誉れ高い賞を授与された人がインタビューに応じて、「初心にかえてさらに今後精進したい」と発言されているように、一般的にこの格言は「スタート時の新鮮な気持ちに立ち返り、謙虚に物事に取り組む」という意味で使用されている。原点回帰の意味として受け止められている。

しかし、世阿弥は初心には①初心者初心、②熟達者の初心、③老後の初心の三つを挙げている。つまり、②の熟達したレベルさらに③の老後にもそれに応じた初心があり、②は一定レベルに達した後、次の未知の領域にゼロから挑戦する初心、③はこれまでの経験は過去のものとして「若者のごとく無心」で挑戦する、つまり命ある限り挑戦を続けよと世阿弥は『花鏡』のなかに筆録している。

彼のこの格言がなぜ①の初心者初心だけが流布されたか定かではないが(恐らく②と③は①よりも一般人には実現性が低いから)、いずれにしろ初心の本来の意味はどうも原点回帰の意味だけではなく、一生涯挑戦する姿勢を持ち続けろというメッセージのようだ。

／片平秀樹『世阿弥に学ぶ100年ブランドの本質』ソフトバンククリエイティブ株式会社



【欧米人は本当に肉好き?】

欧米でも例えばスペインのように魚食文化はあるが、概ね肉食文化といってよいと思う。ただ、肉食文化は日本のように植物が繁茂せず、草しか育たない厳しい寒冷・少雨の自然環境の中で、「草を牛に食べさせて、その牛からミルクや肉を摂取」することで、人間が生き延びたという意味で、「肉食はぜいたくな食文化」とすることは誤認であると思う。

関連して、文献がいくら探してもでてこないが、第二次大戦開戦の2年ほど前からオーストリア政府は密かに食料備蓄に着手した。中でも「牛脂数万トン」の備蓄に取り組んだ。つまり、肉ではなく脂を最重要備蓄物資としていることから肉食文化というけれど、彼らは肉以上に脂を欲している。このように捉えると、例えば現在日本の養殖ブリがアメリカに輸出されているが、ブリは全て脂がのった大型ブリであることが理解できる。欧米人は肉よりも脂が好きなのではないか。

／鯖田豊之『肉食の思想』中公新書

【日本刀の切れ味はなぜ鋭いのか】

日本に鉄器が伝来したのは弥生時代である。同時に青銅器も流入したが、銅と錫の合金である青銅器は金属の耐久性や鋭利さが鉄器に劣り、銅鐸や銅鏡などの祭祀に使われ日常生活には浸透しなかった。製鉄技術は百済の刀鍛冶集団によって4世紀頃に伝達され、6世紀の古墳時代にたたら製鉄技術が確立したといわれている。ただし、室町時代にはすでに日本から明国へ太刀9500把、長刀416把を輸出した実績があるので、1400年頃には日本の製鉄・製刀技術は相当高度なレベルに到達していた。

日本刀の切れ味が鋭いのは製刀工程の「鍛錬」にある。日本には欧州のような鉄の溶解温度1800度をクリアする高温燃焼のコークスがなく、木炭という低燃料しかない。木炭は効率的に空気をフィゴで送り込んでも燃焼温度はせいぜい1200度なので、鉄は完全には溶解しない。だから、日本では西洋のように鉄鉱石から鉄を取り出し、それを叩いて延ばせば剣ができあがる、といった簡単な作業では刃物が作れない。砂鉄を集めそれを溶解し鉄塊とした上で、その鉄塊を火中に出し入れしつつ、何回も粘土のように練って鉄塊に混入している非金属や空孔を減らし、結果として高い硬度の鋼(はがね)を作り上げた。

／樋口清之『梅干しと日本刀』祥伝社

【世間と社会】

会社の不祥事が発覚した場合、社長が記者会見で「世間を騒がせたことに対してお詫びしたい」と発言してい

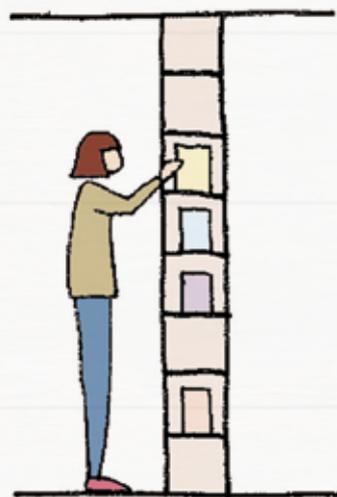
る記憶はあるが「社会を騒がせてお詫びしたい」という発言はあまり記憶がない。学生から「社会という概念についてわかり易く教えてください」と問われれば、私自身納得のいく回答を即答できるかどうか、正直自信はない。一方、「世間に顔向けができない」「世間体が悪い」「世間が許さない」「渡る世間に鬼はなし」など、世間の方が肌感覚に近く説明ができるような気がする。

このモヤモヤを払拭してくれたのがヨーロッパ中世史研究家の阿部謹也氏の一連の著作だった。最近でこそ、NPO法人など「社会」に関係する具体的組織が現れたが、欧米の国・教会・個人(国家と個人の間)に位置する教会＝社会)に対して日本は国・個人(家)の関係性が強く、社会を具現化する組織体がなかったので、世間が一般的に使用された。つまり、世間とは「自分と利害関係にある人々と将来利害関係をもつであろう人々の総称」で、ここでは個人の意思でその在り方が決まるとは考えられていない。一方、社会は「譲り渡すことのできない尊厳を持っている個人が個人の意思に基づきあり方を決める」ことを前提としたヒトの繋がりを指す。この点で、世間という概念と社会という概念の違いは、しっかりとした個人(主義)が根付いているかどうかにあるようだ。

／阿部謹也『世間とは何か』講談社現代新書

【読書の勧め】

読書には乱読や積読を含め、色々なスタイルがある。同じ作家を集中して読むスタイル、テーマで読むスタイルなど様々である。要は自分なりの方法で読書を楽しめばいいので、その時々興味・関心に沿って本を選べばいいと思う。読書を通じて、知ることの面白さ、楽しさが広がっていくはずだ。



「若者の読書離れ」再考

現代社会学部 教授 岩井 八郎 准教授 山本 圭三

1. 「若者の読書離れ」は本当か

大学生が本を読まないと言われるようになって久しい。若者の読書離れは、もはや当然視されていて、あまり問題とされることもないように思える。インターネットの普及により、さまざまな情報を容易く手に入れることができ、雑誌や新聞の購読数も減少を続けている。現代人の情報環境は、大きく様変わりしてしまった。

しかしその中であって、最近、若者の読書離れに歯止めがかかったとの指摘がある。飯田一史著『「若者の読書離れ」というウソ— 中高生はどのくらいどんな本を読んでいるのか』(平凡社、2023年)によれば、小中高生を対象に全国学校図書館協議会が毎年実施している「学校読書調査」から平均読書冊数や不読率の推移を見ると、近年必ずしも「本離れが進行している」とは言えない。とくに小学生の1ヶ月の平均読書冊数は、2000年の6.1冊から2010年に10.0冊となり、2022年には13.2冊と過去最高となっている。また中学生についても2000年の2.1冊から微増傾向にあり、2022年では4.7冊である。高校生の場合は、平均1冊から2冊未満で横ばいだが、2000年に58.8%あった不読率が、2022年には51.1%になっている。このように小中生の読書離れに歯止めがかかった背景には、「朝読」のような読書推進政策があり、またPISAにおける読解力順位の向上を求める動きも後押ししている。

大学生については、毎年実施されている全国大学生活協同組合連合会「学生生活実態調査」によれば、1日の読書時間がゼロの学生は2017年で53.1%あって、2022年にはやや減少して46.4%となっている。

ただし16歳以上の男女を対象とした文化庁の「国語に対する世論調査」には、「1ヶ月にだいたい何冊くらい本を読むか」という設問が含まれている。2019年の調査結果を見ると、「読まない」が47.3%、「1,2冊」が37.6%、「3,4冊」が8.6%、「5,6冊」と「7冊以上」がそれぞれ3.2%である。この傾向には10年の間であまり変化が見られないとのことである。「読まない」割合は、大学生の読書時間ゼロとほぼ一致している。

2. 社会調査データで確認する現状

さて筆者の手に、2000年から全国規模で実施してきた「日本版総合的社会調査(Japanese General Social Survey)」のデータがある。この調査では毎回、マンガ、雑誌を除いた1ヶ月あたりの読書量について、「ほとんど

読まない」「1冊程度」「2冊程度」「3冊程度」「4冊以上」の5段階で尋ねている。個票データを自分で分析できるので、2000年、2010年、2021年の調査データを取り上げ、まず男女別、年齢段階別に平均読書冊数を計算した。その結果が表1である(なお「4冊以上」は4冊として計算しているので、実際の平均は表の数値よりやや高いであろう)。調査対象者の20歳から89歳男女の平均値は2000年が0.89冊、2010年が0.88冊、2021年が0.89冊となっており、3時点に変化がない。日本人全体の1ヶ月の平均読書量は1冊にも満たない。

表1 男女別、年齢段階別の平均読書冊数

年齢	性別	2000年	2010年	2021年
20-29歳	男	0.88	1.16	1.30
	女	0.97	0.86	0.98
	合計	0.93	0.99	1.13
30-39歳	男	1.09	0.77	1.20
	女	0.94	0.73	0.79
	合計	1.00	0.75	0.98
40-49歳	男	1.00	0.92	0.93
	女	0.96	0.94	0.91
	合計	0.98	0.93	0.92
50-59歳	男	0.94	0.90	0.83
	女	0.86	0.94	0.92
	合計	0.90	0.92	0.87
60-69歳	男	0.95	0.96	0.90
	女	0.75	0.87	0.80
	合計	0.84	0.91	0.85
70-79歳	男	0.91	0.95	0.82
	女	0.55	0.64	0.83
	合計	0.71	0.79	0.83
80-89歳	男	0.46	0.98	0.75
	女	0.70	0.61	0.62
	合計	0.63	0.78	0.68
合計	男	0.95	0.93	0.94
	女	0.84	0.83	0.85
	合計	0.89	0.88	0.89

しかし年齢段階別、男女別に3時点の結果を細かく見ると、興味深い傾向を指摘することができる。20歳代の男性において、1ヶ月の平均読書冊数が上昇しているのである。2000年の調査では、20~29歳の男性の平均読書冊数は0.88冊であったが、2010年では1.16冊、2021年になると1.30冊になっていて、男女別の年齢段階で最も高い値を示している。また2021年の30~39歳男性も平均読書冊数が1.20と1冊を超えている。2010年の20歳代の読書傾向が30歳代になっても維持されているといえる。

次に「ほとんど読まない」「1冊程度」「2冊程度」「3冊程度」「4冊以上」の5段階の分布に変化があるのかを検討しておこう。表2は調査対象者全体の結果をまとめたものだが、表からは「ほとんど読まない」が2000年時点で50.5%を占め、2010年では52.1%、2021年では54.2%と微増する傾向にあるとわかる。一般に日本人の半数が1ヶ月に1冊も本を読まないことが知られているが、その傾向はやや強くなっている。

しかしここでも男女別、年齢段階別に分析結果を細かくみると、また違った傾向が見えてくる。20歳代・30歳代の男女に限定して分布の変化を見たものが表3であるが、表からは20歳代の男性で「4冊以上」の割合が高まっていることがわかる。1ヶ月に4冊以上本を読む20-29歳の男性は、2000年では7.7%であったが、2010年では11.1%、2021年では16.9%まで上昇している。さらに2021年の30-39歳男性でも14.5%と高くなっていることや、2021年の20歳代男性での「ほとんど読まない」の割合は45.3%で最も低い値となっている点も目立つ。他方で2021年の20歳代の女性で「4冊以上」12.2%とやや高くなっているが、はっきりしたトレンドを読み取ることができない。そのほかの年齢層についても、明確な傾向は読み取れない(結果は省略)。

表2 読書冊数、分布の変化(数値は%、調査対象者全体の結果)

	ほとんど読まない	1冊程度	2冊程度	3冊程度	4冊以上	合計	人数
2000年	50.5	27.6	10.4	5.2	6.4	100.0	2,879
2010年	52.1	25.7	10.8	5.2	6.2	100.0	4,986
2021年	54.2	22.8	10.5	4.5	8.0	100.0	3,501

表3 読書冊数、分布の変化(数値は%、男女別、20代・30代のみ)

	年齢	性別	ほとんど読まない	1冊程度	2冊程度	3冊程度	4冊以上	合計	人数
2000年	20-29歳	男	53.0	24.9	10.5	3.9	7.7	100.0	181
		女	48.6	27.8	8.5	8.0	7.1	100.0	212
		合計	50.6	26.5	9.4	6.1	7.4	100.0	393
	30-39歳	男	42.4	32.6	8.7	6.5	9.8	100.0	184
		女	47.8	28.9	11.2	6.0	6.0	100.0	232
		合計	45.4	30.5	10.1	6.3	7.7	100.0	416
2010年	20-29歳	男	45.7	21.6	14.9	6.7	11.1	100.0	208
		女	56.1	20.1	12.5	4.9	6.4	100.0	264
		合計	51.5	20.8	13.6	5.7	8.5	100.0	472
	30-39歳	男	56.3	24.4	10.8	3.1	5.4	100.0	352
		女	57.8	24.2	8.6	5.6	3.7	100.0	429
		合計	57.1	24.3	9.6	4.5	4.5	100.0	781
2021年	20-29歳	男	45.3	21.6	8.1	8.1	16.9	100.0	148
		女	54.3	22.0	7.9	3.7	12.2	100.0	164
		合計	50.0	21.8	8.0	5.8	14.4	100.0	312
	30-39歳	男	46.3	20.6	15.0	3.7	14.5	100.0	214
		女	62.0	19.7	5.1	3.8	9.4	100.0	234
		合計	54.5	20.1	9.8	3.8	11.8	100.0	448

3. 今後の変化に期待?

仮に1ヶ月に「3冊以上(3冊程度+4冊以上)」の本を読むものを「読書家」だとすると、20歳代男性の読書家割合は、2000年に11.6%、2010年に17.8%、2021年に25.0%と高くなっていて、日本人の読書離れは、20歳代の若者層から歯止めがかかる傾向があらわれている。またその傾向は男性の場合、30歳代になっても継続している。

このような一般的な社会調査データからは、どのような本が読まれているのか、実用書が多いのか、小説は読まれているのか、といった読書の詳細な実像に迫ることは難しい。しかし広く流布してきた「若者の読書離れ」というイメージは、修正する必要があるとは言えそうである。20歳代から30歳代の男性では、近年「本を読む層」が顕在化し、「読まない層」と分化する傾向がみられる。この傾向は、年齢が上がっても持続する可能性があり、同時に大学生の読書にも影響を及ぼすかもしれない。今後の変化を期待できるのではなかろうか。

謝辞:

日本版 General Social Surveys(JGSS)は、大阪商業大学 JGSS 研究センター(文部科学大臣認定日本版総合的社会調査共同研究拠点)が、大阪商業大学の支援を得て実施している研究プロジェクトである。JGSS-2021Hは、文部科学省特色ある共同研究拠点の整備の推進事業 JPMXP0620335833、JSPS科研費JP20H00089の助成を受け、京都大学大学院教育学研究科教育社会学講座の協力を得て実施した。データの整備は、JSPS人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業JPJS00218077184の支援を得た。

推薦図書

摂南大学図書館では、読書の楽しみを発見してもらうため、図書館運営委員会のメンバーである教員と、図書館サポーターの学生が、さまざまなジャンルから皆さんにお薦めする1冊を選び出し、ここでご紹介させていただきました。これらの本からお気に入りを発見していただければ幸いです。

理工学部 教授 堀内 利一

教員

山の不可思議事件簿

上村 信太郎 [著] 山と溪谷社 2020

世界各地での登山経験豊富な上村氏が、山にまつわる奇妙な現象や魔の山などと呼ばれている恐怖の山の実話、山の怪伝説・伝承などを記した本書は、「いつのまにか移動した山小屋」「消えた4階建て宿舍の怪」「ヒマラヤ登山史上最大の謎」「真夜中にともる消したはずのローソクの灯」「黒部深谷の正体不明の足跡と奇妙な声」など、魅力的な短編集で構成されています。

電気製品に取り囲まれた生活を送っている学生諸氏に、デジタルのゲームとは一味違うアナログ的な山の不思議さを感じてもらえれば、見える世界が広がるように思います。



国際学部 教授 門脇 薫

教員

多言語化する学校と複言語教育

—移民の子どものための教育支援を考える—
大山 万容 [著] 清田 敦子 西山 教行 [編著]
明石書店 2022

本書は、移民の増加により多言語化する学校での言語教育にかかわる問題を、ヨーロッパと日本の両方の視点から考察した論文集である。特に前半の「多言語化する日本の学校」では、2019年の改正入管法施行により増加する外国人児童生徒の生活・学習支援の現状と課題について述べられている。

また、「外国語=英語」「英語ネイティブスピーカーから学びたい」と考える日本の学校教育における外国語教育についても問題提起されている。本書を通してヨーロッパで言われている複言語主義についての理解を深めるきっかけにしていきたい。



経営学部 准教授 三木 僚祐

教員

『絶対悲観主義』

楠木 建 [著] 講談社+α新書 2022

本書は経営学者の楠木建氏によって書かれたエッセイで、日立のWebマガジンでの連載をまとめて刊行したものである。

本書のタイトルである「絶対悲観主義」は、第1章で書かれている。筆者は、「自分の思い通りにうまくいくことなんて、この世の中にはひとつもない」という絶対悲観主義で仕事に取り組むことにより、プレッシャーを感じることなく仕事ができ、仮に失敗しても落ち込まなくて済むと述べている。

学生の皆さんも大学の勉強、就職活動等で悩んでいるときに本書を読めば、気持ちが少し楽になるのではないだろうか。



薬学部 教授 表 雅章

教員

「スパイス、爆薬、医薬品 —世界史を変えた17の化学物質」

ジェイ・バーレサン [著]
ペニー・ルクター [著, 編集]
小林 力 [翻訳] 山と溪谷社 2020

冒頭、ナポレオンによる1812年ロシア戦役から話が始まる。フランス軍は崩壊したが、本書では敗戦の理由に「すべてはボタンがないせいだ」とする風変わりな説に触れている。当時、フランス軍の服のボタンはスズ製だった。このため、零度を下回る気温で「スズペスト」を起こして脆くなり壊れ、零下で服がまともに着れず、士気が下がって敗北したとする説である。真偽はともかく、本書では、世界を激変させた17の化学物質を取りあげ、当時の時代背景に触れながら発明の経緯を解説している。化学と世界史が同時に学べる良書。



法学部 特任講師 高間 佐知子

教員

「魔導具師ダリヤはうつむかない ～今日から自由な職人ライフ～」

甘岸 久弥 [著] KADOKAWA 2018

いわゆる異世界転生ライトノベルですが、内容としては少し変わったヒューマンドラマです。この作品は、ストーリー展開というより主人公を中心とした人間模様や行動心理を読み解いていくと面白いように感じました。

誰かから応援してもらったりは助けてもらうには、まず自分自身が人のために行動できなければならないことが作品を通して見えてきます。変な見栄を張ることもなく、純粋に他人のために本気で一生懸命になれる主人公の生きる姿勢は、何よりもキラキラと輝いていて、読んでると何だか元気がもらえる作品です。



経済学部 准教授 名方 佳寿子

教員

考え方～人生・仕事の結果が変わる

稲盛 和夫 [著] 大和書房 2017

経営の神様といわれ、京セラや第二電電(現KDDI)などを創業し、日本航空(JAL)を再建した稲盛和夫の著書です。

人は人生において思いもよらぬ困難に直面することがあります。その時に大切なのが、どのような「考え方」を持っているかだと著者は言います。人生・仕事の結果=考え方×熱意×能力でできまり、能力や熱意があっても考え方が間違っていれば結果はマイナスになるからです。人生を生きていくうえで大切な9つの考え方を自分の経験や賢者の教えを例に取り上げ説明していますので、是非一読して頂きたいと思います。



看護学部 教授 眞野 祥子

教員

心がスッと軽くなる 認知行動療法ノート ～自分でできる27のプチレッスン～

福井 至・貝谷 久宣 [監修] ナツメ社 2015

私達はストレスを感じずに生活することはできず、ストレス自体が悪いものではありません。しかし、ストレスに対処しきれなくなった時、心身に不調をきたすことがあります。そんな時に役に立つのが認知行動療法です。認知行動療法とは、認知(物事の受け止め方)と行動を変えて感情や生理反応を改善していく手続きです。

この本は、人の認知と行動を1人で簡単に換えられるように、認知行動療法の手段が分かりやすく書かれています。もし、みなさんが困難に陥った時、その困難を乗り越えるためにこの本が参考になればうれしいです。



農学部 特任教授 柳村 俊介

教員

ハイチ革命の世界史 — 奴隷たちがきりひらいた近代

浜 忠雄 [著] 岩波新書 2023

ハイチ革命はフランス革命・アメリカ独立革命とともに18世紀の三大革命のひとつに数えられ、昨年の大学入学共通テストにも出題された。50年前に高校生活を過ごした私はハイチ革命について学んだ記憶が無いが、それもそのはずハイチ革命は歴史の陰に封印されてきたからだ。1806年に世界初の黒人共和国を成立させたこの革命は反レイシズム・反黒人奴隷制・反植民地主義の性格をもつ点で際立った先進性を示す。本書は、旧宗主国フランスの圧力と米国による数次の占領のなかで「革命の先進性ゆえの極貧」にあえぐハイチの姿を描いている。



現代社会学部 准教授 山本 圭三

教員

『聖灰の暗号(上・下)』

帯木 蓬生 [著] 新潮文庫 2009

本作を推薦する理由は色々あるが、その1つは「研究することとは、例えばこういうことだ」という点が示されているところだ。作品自体はフィクションだがテーマはある史実に基づいており、歴史学の専門家である主人公が、その歴史を徐々に紐解いていくことを通して物語は進行していく。主人公が歴史を追っていく際のスタンスは、歴史学だけでなく様々な領域で研究を行う人びとも通じるところが沢山あると思われる。

豊かな教養、豊富な視点・想像力を備えつつ研究を行うことを目指し、ぜひこの作品を読んでいただきたいと推薦者は考える。



経済学部 特任准教授 松浦 正典

教員

人は話し方が9割

永松 茂久 [著] すばる舎 2019

ある講義で教職課程をとっている学生さんに「今一番付けたい力はなに?」と聞いたところ、多くが「コミュニケーション能力」と答えました。それにぴったりの本です。

この本のユニークな点は、「話し方が9割」という題なのに、「聞き方」に多くのページを割いている点です。第5章は「話し方は「聞き方が9割」、第8章は「聞き上手の達人がやっている3つの表情」などなど。

コミュニケーション力を鍛えるには、聞く力も大切なんだということを改めて教えてくれます。そして自分の話をしっかり聞いてくれる人をみんな求めています。



経済学部 経済学科 千賀 美希

サポーター

ケーキの切れない非行少年たち

宮口 幸治 [著] 新潮新書 2019

精神科医の筆者は、一部の非行少年たちの行動が知的障害に原因があることに焦点を当て、知的障害ではないが知的機能が一般より低いことで、少年が非行に走るのを防ごうと働きかけます。彼らは知的機能が障害とまでは言えないことで支援を受けられず、健常者扱いされることで、社会で困窮し犯罪に至ってしまいます。そんな彼らに歩み寄り理解することが、彼らの非行を防ぎ被害者を生まないことにつながると筆者は訴えます。

少年たちの非行の背景にある、自分の力ではどうにもならない現実苦しむ彼らの姿を少しでも知れたことがよかったです。



農学部 食品栄養学科 増淵 柚香

サポーター

『ロールキャベツ』

森沢 明夫 [著] 徳間書店 2023

特に何のとりえもない主人公夏川誠は大学3年生に上がる直前の春休みに2人の女の子と出会い、「チェアリングをしないか?」と誘われます。

「チェアリング」とは椅子を持って好きな場所でくつろぐ遊びを言い、手軽に目の景色を自分の手にできる魅力があります。特に友達同士で行えば同じ景色を共有することで新たな考えを知る機会にもなるため複数人で行うことがおすすめです。主人公はこの遊びを通して交友関係を広げ、自らを成長させていきます。

自分に自信がないと感じている人、チェアリングに興味がある人にはぴったりの一冊です!



法学部 法律学科 田中 春名

サポーター

よけいなひと言を好かれるセリフに 変える言いかえ図鑑

大野 萌子 [著] サンマーク出版 2020

著者は長年、企業のカウンセラーとして働く、人間関係のスペシャリスト。

悪気はないと思うけれど、身近な人の余計な一言で傷ついたり、気持ちをうまく伝えられなくて逆に人を不快にさせてり…。大学生になって人間関係が大きく広がり自分を成長させたくて読んでみました。何となく感覚的に思っていたことが、読むことでストンと理解でき、前向きな気持ちで内容を実践してみようと思いました。その場その場での実践はまだ難しいですが、少し自信を持てるようになる一冊でした。



農学部 農業生産学科 荒井 翔馬

サポーター

さくら荘のペットな彼女

鴨志田 一 [著] 電撃文庫 2010

個性もないごく普通の高校生、神田空太とはあることをきっかけに、「さくら荘」という変人たちが集まる寮に住むことになります。そこで彼らに振り回され愉快な生活を送る中、ある少女の迎えに行った先で不思議な出会いを果たします。「ねえ、あなたは何色になりたい?」これは変人たちの愉快で痛快的な恋愛物語。

平凡な主人公が様々な困難に「さくら荘」の住人と挑む姿に感動し、ヒロインたちの恋愛にもドキドキが止まりません。あと、なんといっても「さくら荘」の住人がみんな個性的で面白い。是非手に取って欲しい一冊です。



現代社会学部 現代社会学科 大西 一輝

サポーター

京都寺町三条のホームズ

望月 麻衣 [著] 双葉文庫 2015

京都寺町三条商店街の骨董品店を舞台にして、女子高生の主人公が、『寺町のホームズ』と呼ばれる骨董品店の店主の息子とともに、客から持ち込まれる、骨董品にまつわる様々な依頼を解決していくミステリーです。

細やかな描写で京都の風情を感じられ、きっと京都が好きになります。最初は女子高生だった主人公が、巻数を数えるごとに成長していく姿に、思わず自分をかきかきしてしまいました。京都が舞台なだけに上品で爽やかなミステリー。表紙のイラストも愛らしい作品です。



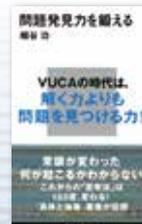
農学部 食品栄養学科 川邊 瑠貴

サポーター

問題発見力を鍛える

細谷 功 [著] 講談社現代新書 2020

不確か性が高い時代には、問題が与えられたら「そもそもこれは解くべき問題なのか?」と疑ってかかり、「解くべき問題はこちらである」と逆提案する能力が必要となります。この本を読むことで事例と共に「真の問題は何か?」を見つける問題発見型の思考回路が身につきます。私が印象を受けたのは、「スマホをいじりながら話を聞く人」に怒ってはいけない理由を述べているところです。理由は、ここに「問題発見」に関するヒントが隠されていたのだと衝撃が走ったからです。視野を広げたい人、新商品の開発をしたい人にオススメです。



枚方分館ニュース

枚方分館は、薬学・看護学・農学に関する専門図書を中心に揃え、学生の学修を支援しています。

学生のみなさんには、学修だけでなく、読書に親しんでもらえるよう『読書ラリー YOMOCA』『テーマ別特集展示』『選書フェア』などを企画しています。また、本と図書館が好きな学生が集まった、枚方キャンパス図書館学生サポーターが発足2年目を迎え、2023年度は自分の推薦する本のすばらしさをプレゼンで競い合う全国大学ビブリオバトルのブロック予選の開催や、学祭で展示を行うなど活動も活発化。読書が好きな学生は是非、図書館学生サポーターに参加してみてください。

読書ラリーYOMOCA (ヨモカ)

YOMOCAとは本を読んだり、書評やPOPを書くことでポイントをためるゲームです。参加すると『本を読む』『文書を書く』という機会が出来ます。

『本を読む』と、ネットでは入手できない本から得られる情報を入手できます。また本を読むことで会話力や文章力が養われます。

『文章を書く』については、本を読んで、ブックレビュー(書評)を書くことにより、論理的思考力や表現力など自己アピール能力が向上できます。専門の図書や小説を読んでチャレンジしてみてください。

<参加方法>

読書ラリーの申込書をカウンターまで提出してください。

参加者にはポイントカードを配付します。図書・雑誌を借りて期限内に返却する、希望図書の申込書を提出、ブックレビュー(書評)を提出するというミッションにより、スタンプを押します。スタンプが全部貯まるとクリアファイルなどのYOMOCAオリジナルグッズがもらえるので、励みになります。



特集展示

専門分野に関するテーマや話題のテーマなど図書を選書して展示しています。今年度は、農学部に関する『産業動物～アニマルウェルフェア～』、看護学部の高齢看護の実習に向けた『昭和へタイムスリップ』など専門分野の展示や、農学部就職用の『資格・就職特集』などの展示を行いました。是非、展示コーナーの図書を手に取ってみてください。

6月 本屋大賞

6月 資格・就職特集

6月 牧野富太郎特集

8月 夏の選書フェア

8月 文化大賞に向けて

8月 直木賞・芥川賞

9月 産業動物～アニマルウェルフェア～

11月 今日は、カレーにしない？

11月 秋の選書フェア

12月 昭和へタイムスリップ

通年 SDGs



産業動物
～アニマル～
ウェルフェア

昭和へ
タイムスリップ



図書館学生サポーター活動

図書館には本と図書館が大好きな学生たちが、寝屋川、枚方の各キャンパスで「図書館学生サポーター」として活動をしています。彼らの様々な活動をお知らせします。

ビブリオバトル

ビブリオバトルとは本の「書評合戦」のことで、図書館学生サポーターは「全国大学ビブリオバトル予選会」を例年キャンパスで開催し、勝者はブロック決戦を経て全国大会へと駒を進めます。従来、予選会は寝屋川本館だけの開催でしたが、2023年度は枚方分館でも開催し、他大学からも参加者があるなど規模も拡大中です。また、2023年度は法学部4年生の巽悠介君が昨年度に引き続き、12月に東京で開催された「全国大学ビブリオバトル」の本戦に出場。多くの聴衆の支持を得ました。

全国大学ビブリオバトル本戦に出場した巽悠介君



マイ・フェイバリット・ブックス

マイ・フェイバリット・ブックスとは、参加者が感動や影響を受けた本を持ち寄ってそれらを紹介し、語り合う読書会のひとつです。定期的に行われ、毎回10名前後の参加があります。発表者はお勧め本のポイントを熱く語り、それについて質問や感想を交換して思いを共有します。皆さんもぜひご参加ください!



図書館謎解き脱出ゲーム

これは図書館紹介を目的とした摂大祭(学園祭)のイベントとして、サポーターが寝屋川本館で開催したものです。参加者は入り口で配布されたクイズを、図書館内のあちこちに配置されたヒントを手掛かりに正解を探していきます。クイズはどんな本がどこにあるかや、普段目にしない種類の本に触れるなど、本と図書館に興味があわく内容となっており、昨年は学園祭期間中2日間で、学生や地域の子供連れなど約200人が参加しました。



脱出ゲームのサポーターと参加者

学園祭で作品等を展示

枚方分館のサポーターは10月29日に開催された摂大祭(学園祭)で、自分たちのオリジナル小説とその登場人物のイラスト、サポーターの推薦図書、今年1年の活動記録を枚方キャンパスのラーニングcommonsで展示しました。初めての試みで、見てくれるか心配でしたが、来場者がオリジナル小説を手に取り、じっくり読む姿に感動。また、推薦図書に興味を持ち、質問する方もいてサポーターの喜びもひとしお。自作しおりの配布も好評で充実した学園祭となりました。



2023年度 図書館学生利用者アンケート結果

図書館では、皆様の利用状況やご意見、ご要望などをお伺いし、図書館サービスの向上および図書館の利用環境改善の参考資料とするため、毎年同じ時期に利用者アンケートを実施しています。

2023年度は10月31日(火)～11月20日(月)までの間、館内でのアンケート用紙配布とWEB回答により実施しました。

この度結果がまとまりましたので主な項目について結果をお知らせします。



1. 回答者数

70人 【寝屋川本館】 38人 【枚方分館】 32人

2. アンケート集計

◆ 図書館全般について

(1) 図書館をどの程度利用しますか。

	寝屋川本館		枚方分館	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
週に3日以上	9	23.7%	3	9.4%
週に1～2日	11	28.9%	7	21.9%
月に1～2日	14	36.8%	9	28.1%
試験期間のみ	0	0.0%	5	15.6%
ほぼ利用しない	4	10.5%	8	25.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%
総計	38	100.0%	32	100.0%

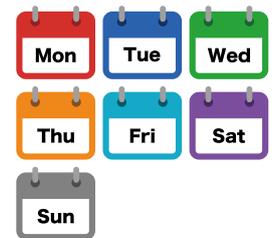
(2) 図書館の利用目的は何ですか。(複数回答可)

	寝屋川本館		枚方分館	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
自学自習	28	29.5%	19	33.3%
グループ学習	1	1.1%	6	10.5%
本を読む	19	20.0%	8	14.0%
新聞・雑誌を読む	3	3.2%	2	3.5%
DVD等鑑賞	3	3.2%	0	0.0%
ゼミ、授業	6	6.3%	3	5.3%
図書貸出、返却	24	25.3%	13	22.8%
休憩	11	11.6%	6	10.5%
計	95	100.0%	57	100.0%

(3) 図書館の環境についてどう思いますか

良い：3点、普通：2点、悪い：1点として平均点を算出

	寝屋川本館		枚方分館	
	2023	2022	2023	2022
資料の配置	2.4	2.6	2.5	2.5
閲覧席数	2.5	2.4	2.5	2.6
案内表示	2.4	2.6	2.4	2.5
静寂性	2.4	2.6	2.4	2.7
視聴覚設備	2.3	2.4	2.5	2.2
パソコン設備	2.3	2.3	2.4	2.1
ラーニング・commons(本館のみ)	2.4	2.5	-	-
環境全般	2.4	2.6	2.5	2.5
開館日数・開館時間	2.3	2.5	2.3	2.5
貸出冊数	2.6	2.6	2.5	2.4
貸出期間	2.2	2.4	2.2	2.2



(4) 図書館内のどのようなエリアの充実を希望しますか。(複数回答可)

	寝屋川本館		枚方分館	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
本を静かに読む	15	20.8%	4	8.5%
一人で学習する	27	37.5%	13	27.7%
学習用個室	16	22.2%	13	27.7%
グループ学習室	3	4.2%	7	14.9%
DVD視聴ブース	5	6.9%	5	10.6%
情報検索コーナー	5	6.9%	3	6.4%
その他	1	1.4%	2	4.3%
計	72	100.0%	47	100.0%



(5) 図書館資料のどれを充実すべきだと思いますか。(3つまで回答可)

	寝屋川本館		枚方分館	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
教養図書	22	26.5%	16	28.1%
専門図書	20	24.1%	18	31.6%
参考図書	9	10.8%	8	14.0%
一般雑誌	4	4.8%	3	5.3%
新聞	1	1.2%	2	3.5%
学術雑誌	1	1.2%	1	1.8%
データベース	2	2.4%	0	0.0%
視聴覚	2	2.4%	1	1.8%
資格取得	16	19.3%	3	5.3%
電子ジャーナル	0	0.0%	1	1.8%
外国学術雑誌	1	1.2%	1	1.8%
電子ブック	2	2.4%	1	1.8%
その他	3	3.6%	2	3.5%
計	83	100.0%	57	100.0%



(6) 図書館のサービス内容やお知らせを主に何で知りますか。(3つまで回答可)

	寝屋川本館		枚方分館	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
ポスター	23	41.1%	13	48.1%
ホームページ	19	33.9%	7	25.9%
パンフレット	4	7.1%	2	7.4%
デジタルサイネージ	2	3.6%	2	7.4%
スタッフ	6	10.7%	1	3.7%
その他	2	3.6%	2	7.4%
計	56	100.0%	27	100.0%



◆ 電子書籍の利用について

(7) どんな電子書籍を読みたいと思いますか。(複数回答可)

	寝屋川本館		枚方分館		備考
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	
小説	21	23.9%	16	28.1%	
漫画	19	21.6%	20	35.1%	
ノンフィクション	7	8.0%	3	5.3%	
ビジネス書	7	8.0%	4	7.0%	
実用書	11	12.5%	2	3.5%	
学術図書	8	9.1%	3	5.3%	
参考図書	8	9.1%	4	7.0%	
雑誌	6	6.8%	5	8.8%	
その他	1	1.1%	0	0.0%	資格・就職関連参考書
計	88	100.0%	57	100.0%	

(8) 今後、図書館では紙の図書と電子書籍のどちらを利用したいですか。

	寝屋川本館		枚方分館	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
紙の書籍	18	47.4%	18	56.3%
電子書籍	2	5.3%	2	6.3%
両方を利用したい	18	47.4%	6	18.8%
わからない	0	0.0%	1	3.1%
その他	0	0.0%	5	15.6%
計	38	100.0%	32	100.0%



図書館利用統計

図書館ではより良い図書館運営のために利用状況の調査、アンケートの実施などを行っています。ここでは、2023年度（12月末まで）の利用状況と、学部別貸出冊数等について報告します。

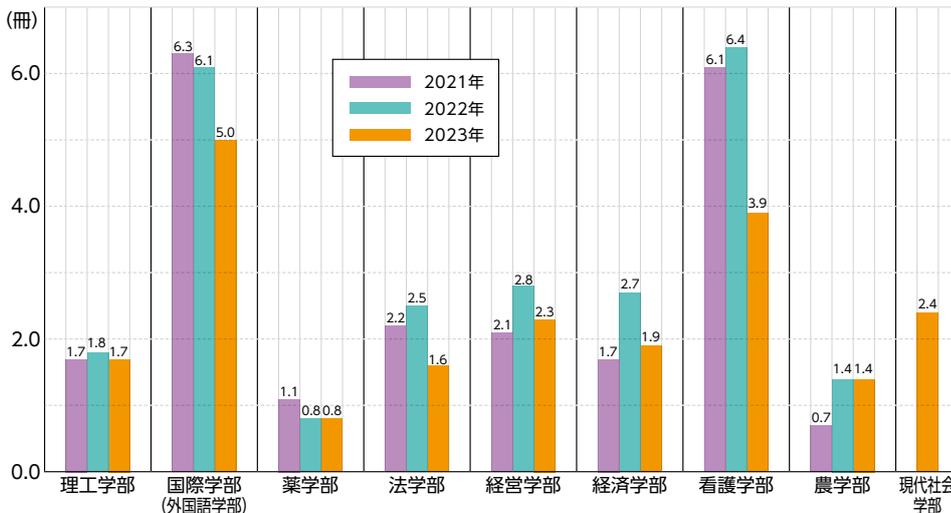
図書館利用状況（2023年度〔12月末まで〕 ※2021・2022年度は年間参考）

区分		本館	分館	計
開館日数	2023年度	212	219	—
	2022年度	282	291	—
	2021年度	278	291	—
入館者数	2023年度	89,248	16,993	106,241
	2022年度	120,417	15,967	136,384
	2021年度	70,380	10,427	80,807
貸出者数	2023年度	11,952	3,053	15,005
	2022年度	12,939	3,126	16,065
	2021年度	10,356	2,722	13,078
貸出冊数	2023年度	19,603	5,885	25,488
	2022年度	23,049	6,872	29,921
	2021年度	21,326	6,578	27,904

2023年度は新型コロナウイルス感染症の影響下から徐々に正常化へと変化したことで、図書館の利用者もコロナ禍前の人数にはおよびませんが、かなりの増加がみられました。



学部別 1人当たり貸出冊数（2023年度〔12月末まで〕 ※2021・2022年度は年間参考）



貸出の状況は学部によってかなり差があり、国際学部や看護学部の貸出が目立ちます。図書館では学生の希望図書購入制度がありますので、ぜひ利用してください。



貸出トップ 10（2023年度〔12月末まで〕）

順位	タイトル / 著者 / 出版社	貸出回数
1	汝、星のごとく / 凧良ゆう / 講談社	18
2	変な絵 / 雨穴 / 双葉社	17
3	ラブカは静かに弓を持つ / 安壇美緒 / 集英社	16
4	#真相をお話しします / 結城真一郎 / 新潮社	15
4	方舟 / 夕木春央 / 講談社	15
6	変な家 / 雨穴 / 飛鳥新社	14
7	クスノキの番人 = The camphorwood custodian / 東野圭吾 / 実業之日本社	12
7	かがみの孤城 / 辻村深月 / ポプラ社	12
9	爆弾 / 呉勝浩 / 講談社	11
9	ハンチバック / 市川沙央 / 文藝春秋	11

2023年本屋大賞受賞作品が今年も1位にランクイン。また本屋大賞の第2位が3位にはいりました。例年、本屋大賞ノミネート作品は貸出上位にランクインしています。



※資格・就職・TOEIC関連本、リーディングラウンジ本は除く

2022年度 図書館入退館者調査



1. 身分別入館者数 (延べ人数)

- 入館者に占める学生比率：本館 = 95%、分館 = 87%
- 1日の平均入館者数：本館 = 351人、分館 = 38人

※寝屋川と枚方キャンパスの学生数比(7:3)から見て分館の学生入館者数が少ない。

本館

身分	入館者数(延べ) [A]	比率
学生	92,140	95%
教員	3,266	3%
職員	2,250	2%
合計	97,656	100%

分館

身分	入館者数(延べ) [A]	比率
学生	9,501	87%
教員	1,184	11%
職員	276	2%
合計	10,961	100%

2. 身分別入館者数 (実人数)

- 入館学生1人の平均入館回数：本館 = 15.8回、分館 = 6.5回
- 在籍学生のうち図書館に入館したことがある比率：本館 = 90%、分館 = 53%

本館

区分	入館者数(実) [B]	[A]÷[B]	在籍者数 [C]	[B]÷[C]
学生	5,848	15.8	6,531	90%
教員	265	12.3	—	—
職員	153	14.7	—	—
合計	6,266	15.6	—	—

分館

区分	入館者数(実) [B]	[A]÷[B]	在籍者数 [C]	[B]÷[C]
学生	1,467	6.5	2,772	53%
教員	137	8.6	—	—
職員	39	7.1	—	—
合計	1,643	6.7	—	—

3. 学生学部別入館者数 (延べ人数)

- 最も入館者数が多い学部：本館 = 理工学部、分館 = 薬学部
- 最も入館者数が少ない学部：本館 = 経営学部、分館 = 農学部

本館

学部名	入館者数(延べ)	比率
法学部	14,793	16%
国際学部	15,794	17%
経済学部	18,548	20%
経営学部	14,288	16%
理工学部	28,225	31%
薬-看護-農学部	75	0%
合計	91,723	100%

分館

学部名	入館者数(延べ)	比率
薬学部	4,650	49%
看護学部	2,528	27%
農学部	2,305	24%
理工経営学部等	14	0%
合計	9,497	100%

4. 学生学部別入館者数 (実人数)

- 最も入館比率が高い学部：本館 = 国際学部、分館 = 看護学部
- 最も入館比率が低い学部：本館 = 理工学部、分館 = 薬学部

本館

学部名	入館者数(実) [D]	在籍者数 [E]	[D]÷[E]
法学部	956	1,084	88%
国際学部	890	906	98%
経済学部	1,020	1,103	92%
経営学部	1,039	1,141	91%
理工学部	1,891	2,297	82%
合計	5,796	6,531	89%

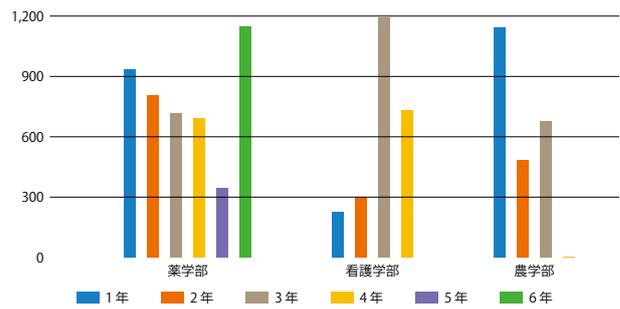
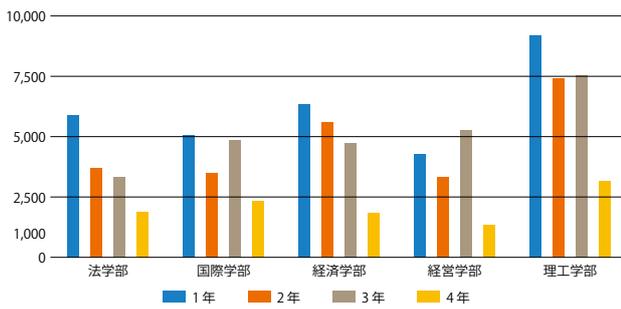
分館

学部名	入館者数(実) [D]	在籍者数 [E]	[D]÷[E]
薬学部	629	1,365	46%
看護学部	318	417	76%
農学部	508	990	51%
合計	1,455	2,772	52%



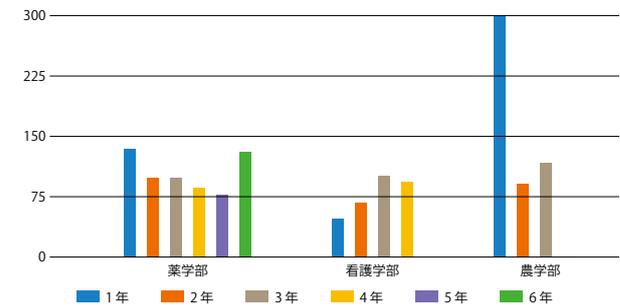
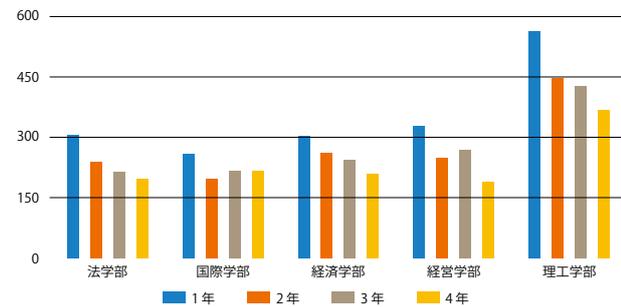
5. 学生学部・学年別入館者数 (延べ人数)

● 薬・看護・農学部を除き、どの学部も1年次が多く、年次進行とともに減少する傾向が見られる。



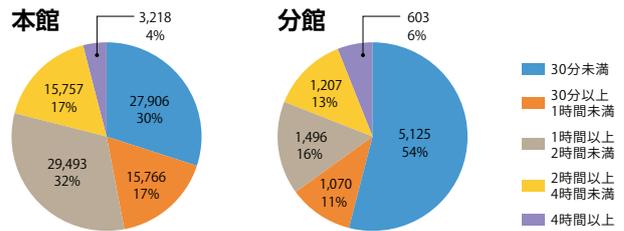
6. 学生学部・学年別入館者数 (実人数)

● 5.と同様に薬・看護・農学部を除いてどの学部も1年次が多く、その後減少していく傾向が見られる。

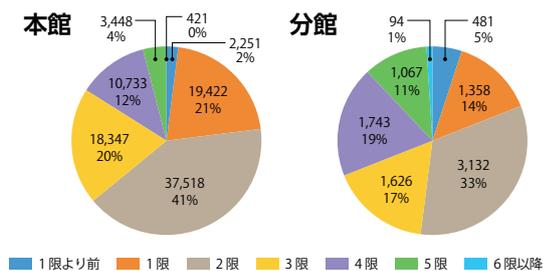


7. 学生利用滞在時間数 (延べ人数)

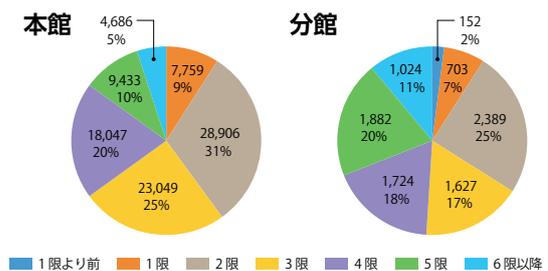
● 本館・分館ともに1時間未満の滞在が約半数で、特に分館は30分未満の滞在が半数を超える。



8. 入館時間帯比率 (延べ人数)



9. 退館時間帯比率 (延べ人数)



10. 学生入館者図書貸出比率 (延べ人数)

● 本館：入館者数に対して学部別で16～35%、平均21%の貸出比率。
● 分館：入館者数に対して学部別で24～103%、平均54%の貸出比率。

本館			
区分	入館者数(延べ) [F]	貸出冊数(延べ) [G]	[G]÷[F]
法学部	14,793	2,693	18%
国際学部	15,794	5,516	35%
経済学部	18,548	3,014	16%
経営学部	14,288	3,210	22%
理工学部	28,225	4,487	16%
合計	91,648	18,920	21%

分館			
区分	入館者数(延べ) [F]	貸出冊数(延べ) [G]	[G]÷[F]
薬学部	4,650	1,104	24%
看護学部	2,528	2,600	103%
農学部	2,305	1,376	60%
合計	9,483	5,080	54%

※ ①延べ人数は、同一人物が同一日に入退館を複数回した場合、1回でカウント ②在籍者数は、2022年5月1日現在の数値



電子ブックを活用しよう!



図書館ではオンラインで利用できる電子書籍の導入を積極的に進めています。
VPN接続などを利用すれば、自宅をはじめ学外からも利用ができます。
本学で利用できる電子書籍をいくつか紹介します。

Maruzen eBook Library

Maruzen eBook Library は丸善雄松堂が運営する電子書籍提供サービスです。学術研究機関のための専門書や教養書、学術雑誌を取り揃えています。

本学では就職活動に挑む学生向けに、「就職四季報」をはじめ採用試験に用いられる「玉手箱シリーズ」や各種SPI対策、面接対策ガイド等も契約しています。



EBSCO eBooks

EBSCO eBooksは、学術書・専門書を中心とした電子書籍サービスです。

自宅のパソコンなどからも利用できます。学生の学修や研究に利用できる書籍が中心になっており、世界中の主要な出版社や大学出版局の電子書籍が充実しています。



KinoDen

KinoDen (キノデン) は、紀伊國屋書店による学術和書の電子図書館サービスです。読みやすいビューアや全文検索といった特長を備えており、特に日本人に使いやすい電子図書サービスとなっています。

2023年度「摂大文化大賞」入賞作品発表！

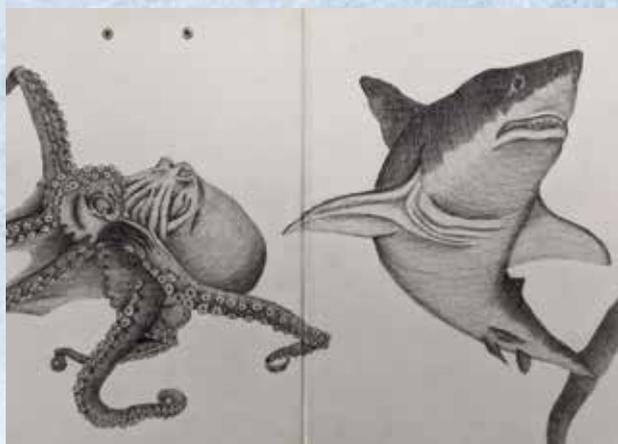
図書館では毎年、学生の文化的創作意欲を奨励するため「摂大文化大賞」を設け、作品を募集し優秀な作品を表彰しています。

今年度も文芸、美術・工芸、写真の3部門に20点の応募があり、厳正な審査の結果、下記のとおり6作品が各賞を受賞しました。表彰式は12月19日(火)に図書館本館1階のラーニング・commonsで実施され、受賞者には表彰状と副賞が授与されました。

また今年度はこれとは別に「摂大フォトコンテスト」も開催され、こちらには7作品の応募に対して、2作品に優秀賞と準優秀賞が授与されました。



左から小山館長、摂大文化大賞の松下泰士君と横尾作太郎君



摂大文化大賞作品「海の幸」

摂大文化大賞受賞作品

部門 / 賞	作品名
大賞	海の幸
文芸部門 優秀賞	21世紀洋楽誌 (仮題)
美術・工芸部門 優秀賞	掛け軸
美術・工芸部門 準優秀賞	雨上がり
写真部門 優秀賞	憧れの大学
写真部門 準優秀賞	虹

摂大フォトコンテスト受賞作品

賞 / 作品名
優秀賞 / エメラルドグリーンの鏡
準優秀賞 / 明日へ



フォトコンテスト優秀賞作品「エメラルドグリーンの鏡」

編集後記

大学生が生成AIを使って課題レポートを作成していると聞き、私も乗り遅れまいと生成AIを使って文章を作成するも、指示が抽象的なためか、思った通りに仕上がらない。普段から自身がいかにか抽象的な表現が多いのかを気づかされる機会でもあった。一方で、監督が「アレ」という抽象的な表現で選手を巧みに人心掌握し、18年ぶりの優勝を果たした阪神タイガース。ついには「アレのアレ」で38年ぶりの日本一に。人間を相手に伝える時は、必ずしも具体的でないことの方が良いこともあるのであろう。そしてそのうち生成AIも抽象的な指示であってもディープラーニングを重ねて、かゆいところに手が届くような答えを返してくれるのだろう。ならば図書館のレファレンスサービスも生成AIに取って替わるのであろうか。いや、検索などの機械的な処理なら生成AIの方が得意であろうが、利用者の要求を感情も含めて総合的に理解し回答するのは人間が勝るのであろう。両者の長所を生かしたハイブリッド型の協働になっていくのであろう。